

## 平成28年度第3回 鹿児島市清掃事業審議会 概要

### 1 開催日時

平成28年5月25日（水） 14：30～15：23

### 2 開催場所

東別館 特別中会議室

### 3 出席者

#### (1) 審議会委員（11名）

赤崎委員(副会長)、有馬委員、井上委員(会長)、榎本委員、大前委員、鬼塚委員、瀬戸山委員、藤安委員、三原委員、柳井田委員、吉見委員

#### (2) 事務局（9名）

環境局長、資源循環部長、資源政策課長、廃棄物指導課長、清掃事務所長、北部清掃工場長、南部清掃工場施設整備係長、資源政策課管理調整係長、同課ごみ減量推進係長

### 4 次第

#### (1) 議事

##### ① 諮問事項

家庭ごみの有料化（一般廃棄物処理手数料の徴収）について（6回目）  
家庭ごみの有料化について（答申）について

#### (2) その他

### 5 審議事項の概要

#### (1) 議事

##### ① 諮問事項

家庭ごみの有料化（一般廃棄物処理手数料の徴収）について（6回目）  
家庭ごみの有料化について（答申）について

発言者	発言内容
事務局	各委員に事前に資料をお送りしているが、それに対して寄せられた意見をまとめているので、その説明をさせていただきたい。
委員	(一同了解)
事務局	答申案に対する修正提案説明（約4分）
会長	皆さんのお手元にある答申案については、前回もかなり慎重に、細部にわたって検討をしてきたところだが、その後、その意見を受けて修正したものを、再度各委員にお送りして、各委員からのチェックを

発言者	発言内容
会長	<p>受け、ご意見をうかがった。それが、今、事務局の方から説明のあった意見である。意見を見ると、表現上の問題など細かな部分であり、大きな内容の変更を迫るものではなかったと理解している。そこで、私の方から、その対処方法について提案させてもらう。その提案でよろしいかどうかお諮りしたい。</p> <p><b>【修正提案1】</b> 特に「市民一人当たりの排出量」に対する減量化ということを示すという意味で、ここは「この」を付けたままでいきたいと思うが、よろしいか。</p>
委員	(異議なし)
会長	<p><b>【修正提案2】</b> 「推進を図るべきである。」と切ってしまうと、有料化の実施ありきが全面に出てしまい、「その時点の経済状況を十分に勘案した上で」という文章が弱くなってしまうため、原案どおりでよろしいか。</p>
委員	(異議なし)
会長	<p><b>【修正提案3】</b> 「環境にやさしい社会を実現するための施策や、市民サービスの向上につながる施策」と記載されてあるが、この施策については、重要な背景となるものである。鹿児島市が、環境にやさしい社会を実現する、また、環境リーディングシティを目指したいといっているため、ご提案のとおり施策を強調するかたちで、かぎかっこを付けた方がいいと思うが、よろしいか。</p>
委員	(異議なし)
会長	<p><b>【修正提案4】</b> 市民の合意形成については、答申案の文章そのものには、あまり記載せず、審議会で審議されたより具体的な事項については、資料の②から③に具体的に示して、それを添付して答申するというかたちにした方がいいと思うが、原案どおりでよろしいか。</p>
委員	(異議なし)

発言者	発言内容
会長	<p>【修正提案5】</p> <p>一般論として、メディアを使った広報というのは、ターゲットを絞ったものもあるが、通常であるならば、メディアに接することのできる不特定多数の人を対象とするということで、「不特定多数」という言葉遣いでもいいのではないかと思う。原案どおりでいいと思うが、他の表現を使うとすれば、どういう表現になるか。</p> <p>たとえば、「不特定多数を対象にした周知方法」を省略する表現もあるが、事務局としては、どのように考えるか。</p>
事務局	<p>事務局としては、「不特定多数を対象にした」というのは、メディアの特性を繰り返しているため、会長がおっしゃるとおり、省略する方がいいのではないかと考えている。</p>
会長	<p>それでは、「メディアを使った広報・啓発のみならず、町内会などを対象にした住民説明会や周知パンフレットの全戸配布などをきめ細かに行う必要がある」という表現に改めるということにする。</p>
会長	<p>【修正提案6】</p> <p>答申に下線があるのも違和感があるため、正式な答申を作成するときは、下線部分は消したいと思うがよろしいか。</p>
委員	<p>答申をまとめたところがこの下線部分であるが、2行にわたって非常に簡単にまとめているいい文章だと思う。下線を除くならば、太文字にするほどの価値はあると思う。特に、「減量化・資源化」というのを並列併記しているが、これはとても重要なことで、人口が減ればごみは必ず減るが、むしろ力を入れるべきは資源化の方であり、これを強調したほうがいいと思う。</p>
会長	<p>資料②の2ページの(3)に、「家庭ごみの有料化を実施することで、市民がごみ処理コストを意識し、今まで以上に関心をもって家庭におけるごみの減量化・資源化に取り組んでもらうきっかけづくりとなる」と記載されているため、この部分に下線を引いて強調する手もあるが、「(3) 市民意識の改革」の後ろに「(減量化・資源化の再認識)」とわざわざ記載しており、強調しているかたちにはなっている。形式上、下線を引かないというふうにしたいと思うがよろしいか。</p>
委員	<p>(異議なし)</p>
会長	<p>事務局は、補足説明をすることがあるときは、「資源化」を強調し</p>

発言者	発言内容
委員	<p>ていただきたい。私も、市長に答申する際は、そのところを十分に強調したいと思っている。</p>
委員	<p>資料②の２ページの（３）に、「３Ｒの中でも、２Ｒ（リデュースとリユース）」と記載されているが、有料化によって２Ｒが進むというのがよく分からない。リサイクルも進むのではないか。</p>
会長	<p>リサイクルも進むのではないかという理屈を説明してほしい。</p>
委員	<p>ごみをたくさん出して、たくさんリサイクルをするというのは、必ずしも好ましくないと理解している。したがって、３Ｒではなくて２Ｒが進むというのは、理想的には素晴らしい。しかし、リサイクルできるものは、有料化の対象外とするため、リサイクルも進むと考えられる。２Ｒと記載する意味がないのではないかと思う。</p>
委員	<p>リサイクルへの意識も一層高まるという意味か。</p>
委員	<p>そのとおりである。</p>
事務局	<p>資料②の２ページ（１）に、「有料化の対象を「もやせるごみ」と「もやせないごみ」とし、「資源物」については低額または無料とすることで分別の促進が図られ、資源化が進むことも期待できる」と記載している。（３）の「その結果」以降の文章は、お金のかかるごみ処理についてと考えたときに、ごみの減量化につながる２Ｒが特に進むのではないかということで、ある意味例示的なかたちで記載しているが、不用といえばそうだとも思う。</p>
会長	<p>リサイクルを否定する文章ではないが、大前委員の意見としては、３Ｒのうち、どれも同じ効果があるということだが。</p>
事務局	<p>今の文章を生かすと、「その結果、資源化の推進に加え、３Ｒのなかでも、特にごみの減量化につながる２Ｒの実践にもつながる。」という言い方になるが。</p>
会長	<p>それは、回りくどい言い方になるため、最初から、３Ｒの推進に効果的であるという方がいいのではないか。</p>
委員	<p>資源化イコールリサイクルと捉えられているが、それはおそらく間違いで、資源化というのは必ずしもリサイクルだけではなくて、廃棄</p>

発言者	発言内容
会長	<p>物をリユースしても、それは資源化しているというような認識だ。</p> <p>有料化の効果がどの範囲まで及ぶかという議論だが、今まで、有料化すれば、リデュース・リユースは進むというのは共通の認識であったが、有料化によって、リサイクルもおそらく進むであろうというのは、それもそうだと思う。</p> <p>しかし、特に効果があるのは、この2つ（リデュース・リユース）ではないかという気がする。リサイクルもゼロではないが、ここに優劣を付けるか付けないかという話になる。</p> <p>場合によっては、誤解を与えないためにも、「その結果」以降の文章は削ってしまうという手もある。</p>
委員	<p>(一同賛成)</p>
会長	<p>委員のなかでは、「その結果」以降の文章は削るという提案だが、事務局はよろしいか。</p>
事務局	<p>表題が、「市民意識の改革」となっているため、「きっかけづくりとなる。」という文章でとめても、特に支障はないと考える。</p>
会長	<p>他に意見がなければ、答申案の内容は整理されたということによろしいか。</p>
委員	<p>(異議なし)</p>
会長	<p>それでは、今いった内容に整理されたものを、市長の方に答申するというようにさせていただきたいと思う。</p> <p>本日、用意された議事事項は以上であるが、ほかに何か意見はないか。</p>
委員	<p>資料②の2ページの(3)の一行目に、「市民がごみ処理コストを意識し」と記載しているが、これは非常に重要な文言である。</p> <p>市民が関心をもつのは、ごみ清掃事業に使用される税金である。本来、清掃事業を公共サービスとして提供する事業部が検討する問題だと思う。有料化というのは、ごみを減らすための一つの手法にすぎない。これが、一番経済的インセンティブが働いて効果的であるということで、有料化というテーマを設けて、ここまで議論を進めてきた。しかし、答申は、しかるべき時に検討して、しっかりと行うという延長戦となっているが、清掃事業において収支バランスがどうなってい</p>

発言者	発言内容
会長	<p>るのかを我々に開示して議論を出発してもらわないと、本当の議論はできない。</p> <p>収入としては、発電したり、バイオガスを発生させたりすることで、大きな収益になってくる。しかし、それに見合うだけのコストがかなりかかっている、今しばらくは、収益構造は改善できない。したがって、有料化を導入し、ごみ処理事業に関するコストを値上げすることになる。我々が、どうして値上げをしないといけないかという状況を踏まえた上で、この議論に入っていくのが筋だと思う。</p> <p>有料化については、経済状況をよく勘案してとあるが、世の中の経済状況とは関係なく、この清掃事業に市民がどれだけの税金を使うことを許容するかということが本当の問題である。これらのことを慎重に議論していただきたい。</p> <p>これは、答申とは関係ないが、延長戦となったわけだから、次の時まで、しっかりと検討していただいて、その情報を市民に公開することの方が、はるかに市民のコスト意識には寄与する。あくまでごみにいくらかかっているということよりも、税金の負担がどうなっているのか、税金をどう使われているのか、このサービスにはこれだけの税金を使ってもいいというような論拠を我々に示していただいて、議論が進むことが望ましいと思う。</p> <p>それは、今後の課題ということで承っておきたい。</p> <p>今回の有料化の議論は、いくつか論点があり、ごみを処理するうえでコストがかかり、そのコストについて、税金で賄うのかという議論ももちろん必要であったと思うが、一番大きいのは、ごみの減量化をどうしたらこれ以上進めることができるのかということだ。</p> <p>今まで、市当局も様々な施策をしてきたと思うが、それでもごみの排出量は頭打ち状態になっている。特にごみの排出のおおもとのところである、一人ひとり、あるいは各世帯のごみの排出量を減らすことによって、総量も減ってくるだろうという議論であった。</p> <p>家庭からのごみの排出量が頭打ち状態で、中核市のなかでも成績が良くない状況であるが、中核市においては、かなりの市が有料化を導入して、鹿児島市以上の成績を上げている。したがって、我々も有力な一つの手段として、有料化というのを真剣に議論してきた。</p> <p>ただし、このごみ処理に関する問題というのは、多岐にわたる問題を含んでおり、委員がおっしゃった問題についても、課題としてきちんと取り組んでいきたいと思う。</p>